

水防講習会が行われました

7月4日、中山町防災センター付近において「水防講習会」が開催されました。

この講習会は、町内の消防団員約100人が参加。洪水についての理解を深め、洪水時のパトロールのしかたや被害を減らす方法を学びました。

その後の実技実習においては、縄の結び方や土のうの作り方を教わり、それを応用して「月の輪工」という土のう積み方を学びました。

参加した消防団員の多くは土のう作りや積み方を経験したことがなく、今回の講習は貴重な経験となりました。この講習会は山形河川国道事務所と全国防災協会の協力を得て実施されました。



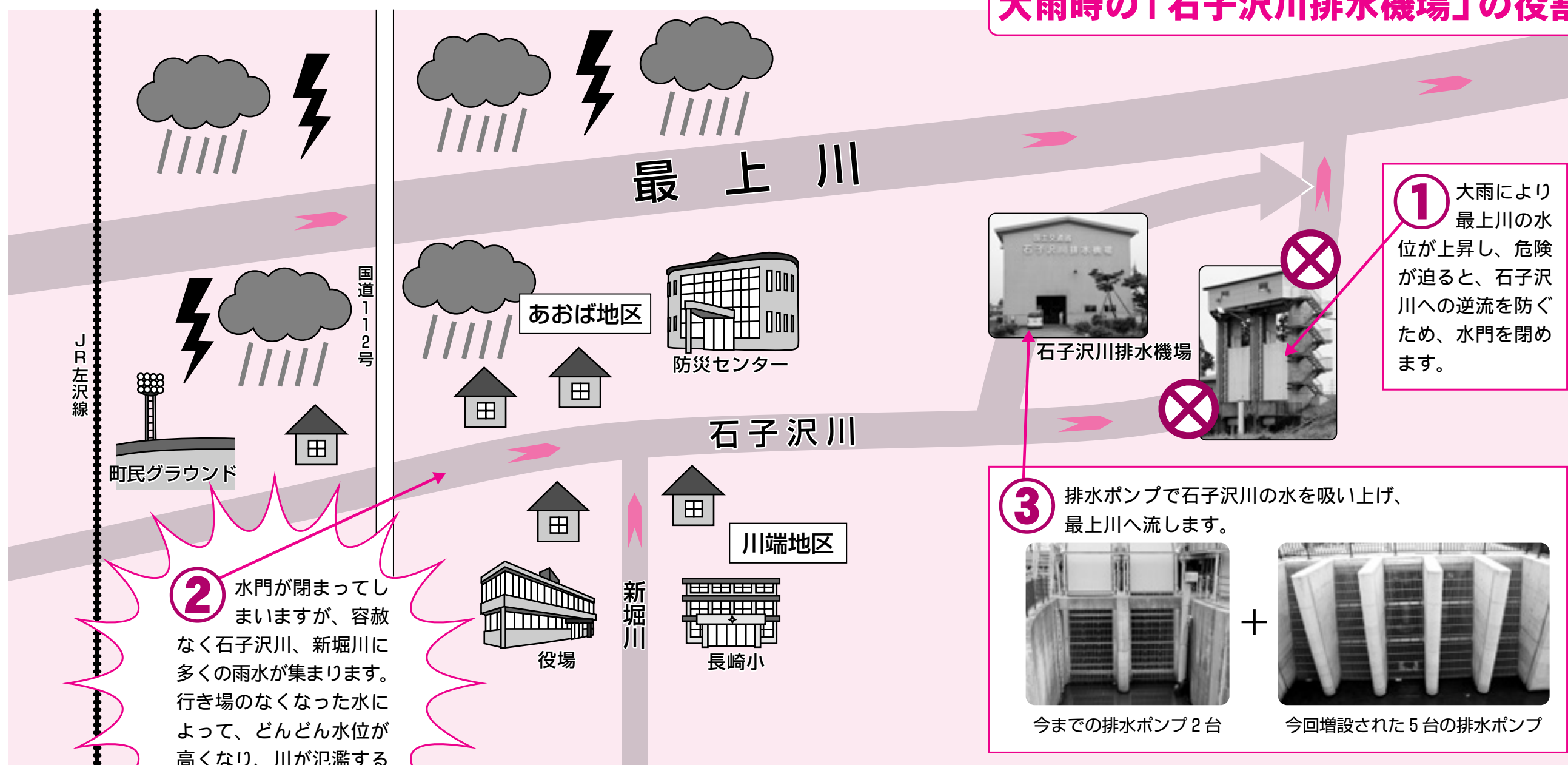
「月の輪工」訓練のようす

このたび、あおば地区にある「石子沢川排水機場」の排水ポンプが5台増設され稼働できるようになりました。これにより、石子沢川下流域の低地にある住宅や道路の浸水被害がこれまでより少なくなることが期待されます。

近年は各地で集中豪雨が相次ぎ、河川の氾濫や住宅への浸水などが多発しています。当町でも昭和42年8月に最上川が氾濫し大洪水が発生し、平成14年にはあおば地区で道路等が冠水しました。

「石子沢川排水機場」は昭和61年に建設され、以来2台のポンプ（毎秒5トン）により石子沢川の水を最上川へ排水していましたが、今回新たに5台のポンプ（毎秒3トン）が増設され、排水能力が6割も高まりました。石子沢川の水位が高くなって氾濫が想定される場合には、最大で毎秒8トンの水を最上川へ排水できるようになりました。これは、25mプールいっぱいの水を約30秒ほどで空にできる能力を持っています。

大雨時の「石子沢川排水機場」の役割



洪水からまちを守る！
「石子沢川排水機場」排水ポンプを増設しました